

構造改革特別区域計画

1 構造改革特別区域計画の作成主体の名称

福岡県及び福岡市

2 構造改革特別区域の名称

福岡アジアビジネス特区

3 構造改革特別区域の範囲

福岡市の全域

並びに春日市及び大野城市の区域の一部（九州大学筑紫地区）

4 構造改革特別区域の特性

福岡アジアビジネス特区は、アジアビジネスの拠点を目指すにふさわしい福岡の地域的・歴史的・経済的な特性を活かしながら、外国人研究者や外国人情報処理技術者などの海外の人材の活用や産学連携の促進、博多港の港湾機能強化等のための規制の特例を適用することにより、博多港の国際ゲートウェイ機能を強化しながら、アジアでのビジネス展開を目指す国内外の企業やベンチャー企業の集積を加速することが十分可能な地域である。

(1) アジアとの強い結びつき

福岡は、朝鮮半島や中国大陸に最も近い大都市であり、例えば大阪よりも釜山が近く、また、上海は東京とほぼ同じ距離にあるといった地理的優位性を持ち、歴史的にも、大陸文化の受入窓口としての役割を果たしてきている。外国の公館・経済関係機関は、東京、大阪に次いで集積しており、アジア地域を中心に13の機関が立地している。

また、経済的にも福岡とアジアとの結びつきは強く、企業の海外進出、貿易などにおける対アジアの占める比率は高いものとなっている。この10年間における貿易取扱額の伸び率は、全国平均で約23%増であるが、福岡空港と博多港を合計した貿易取扱額の伸び率は、その7.7倍の約177%増であり、特に、対東アジアについては約357%にも拡大しており、アジアの産業交流拠点としての発展が目覚ましい。

福岡市では、韓国・釜山広域市、シンガポールの中小企業振興を所管する政府機関、中国・青島市とそれぞれ経済交流促進に関する覚書等を締結するなど、アジア主要都市との経済交流ネットワークの具体的な構築を図っている。

さらに、平成14年7月には国の都市再生本部により「北部九州圏におけるアジア産業交流拠点の形成」が都市再生プロジェクトとして決定されたところであり、人・もの・情報のゲートウェイ機能を活用した産業拠点の形成を目指し、海外とのビジネ

ス機会の創出支援やシステムLSIやバイオ、ナノ等の分野における産学官一体となったプロジェクトなどに取り組んでいる。

(2) 1,500万人経済圏の中核地域

高速交通体系等の整備に伴い、近年は、福岡に九州・山口1,500万人経済圏の中核管理機能がさらに集積しており、福岡を核として人・もの・情報の交流構造が構築され、九州・山口の活性化に貢献している。

また、九州は約4,135億ドル(平成12年)の国内総生産(GDP)を有し、韓国、インド、オランダ、オーストラリアに匹敵する経済規模を有しており、市場としての十分な魅力を持つと考えられる。福岡県は、九州経済の約4割を占め、その中心地として発展している。

(3) 充実した交通インフラ・博多港の国際ゲートウェイ機能

福岡は、空路、航路、新幹線、高速道路等により、九州はもとより国内の交通拠点としての役割も果たしている。また、福岡空港と博多港を玄関としてアジアをはじめ世界の都市と結ばれており、恵まれた地理的環境と良好な交通アクセスで、福岡は「アジアのゲートウェイ」となっている。

福岡空港は、国内の29都市と一日最大303便の定期航空路で結ばれているほか、世界の23都市(うちアジアの19都市)と週282便の定期航空路で結ばれている。

博多港は、九州・西日本の海の玄関口として機能を高めており、平成6年には九州で初めてコンテナ専用ターミナルとして香椎パークポートを供用し、平成15年9月にはアイランドシティ外貿コンテナターミナルを供用している。同港の国際コンテナ取扱量は年々着実に増加し続け、平成14年には年間約55万TEUとなり、ここ10年間で約2.7倍の高い伸びを示している。国際コンテナの定期航路は、アジア、北米、ヨーロッパなど世界の18か国・地域、38の主要港との間に31航路、月間170便(平成15年9月現在)が就航しており、西日本では唯一北米・欧州などの基幹航路の寄港地となっており、九州・西日本とアジア・世界を結ぶゲートウェイとして機能している。

また、博多港は釜山への定期旅客航路を有しており、3時間弱で結ばれ、外航旅客者数は年間約49万人(平成14年)にも達し、平成5年の旅客者数の約5倍に増加する急伸びりで、日本一の乗降人員を誇っている。

(4) 充実した情報インフラ

高速2.4ギガビット/秒のバックボーンを誇る「福岡ギガビットハイウェイ」は、県内9都市にアクセスポイントを設置し、東京・大阪など国内主要都市にも専用回線で接続されている。

平成14年3月に運用が開始された「日韓光ケーブル」は、福岡市と釜山市を海底光ケーブルで結ぶものであり、日韓の経済交流のさらなる活発化が期待されている。

(5) 大学・研究機関等の集積

福岡市には、国立九州大学をはじめとして国立九州芸術工科大学、福岡大学、九州産業大学、福岡工業大学、東和大学、福岡歯科大学などの理工系学部を有する大学が集積しており、科学技術の研究拠点となっている。

この2月には、九州大学が、上海交通大学と製造業を中心とした双方の地元企業同士の交流を仲介する国際産学連携プロジェクトを始動させることを決めるなど、アジアとの産学交流の取組みもみられる。

また、これらの大学での研究成果を企業活動に反映させるべく、(財)福岡県産業・科学技術振興財団、(財)九州システム情報技術研究所などの産業支援機関が設置されている。

特に、IT、半導体関連企業の集積が進む同市早良区ももち地区では、大学等の研究成果を社会還元するための拠点である科学技術振興事業団のイノベーション・プラザ福岡に加え、地域振興整備公団のシステムLSI総合開発センター(仮称)の建設を間近に控え、研究拠点としての機能が一層高まっている。

(6) IT関連産業や対事業所サービス産業等の集積

福岡市は、九州・山口地域1,500万人経済圏の中核地域であることを背景に、サービス業、特に対事業所サービス業や卸売業は九州に占めるシェアが高く、九州全体の産業を支援する機能が集積している。

また、同市早良区ももち地区の福岡ソフトリサーチパークには、国内外大手6企業・グループである松下電器産業、日本電気、富士通、日立製作所、大宇、日本IBMを含む約110社の情報関連企業が立地し、約6,500人の研究者や技術者などの就業者を擁する我が国における情報関連産業の一大集積地となっている。

さらに、ソニーが、アジア展開を視野においてグループ全体の半導体生産の統括拠点やシステムLSIの設計開発拠点、さらには新しい社会システムの開発拠点など一大頭脳拠点をもち地区内に構築しつつあるほか、多様な情報関連企業の集積が一層高まっている。

(7) 国際会議等コンベンション

福岡市は、福岡ドーム、福岡国際会議場、アクロス福岡、福岡国際センター、マリオンメッセ福岡、福岡サンパレスなど、多様なコンベンション形態に対応できる施設が整っており、平成9年のアジア開発銀行総会、平成12年の九州・沖縄サミット蔵相会合など重要な国際会議が開催されている。このほか、アジア各国のシンクタンクの

国際会議である「福岡アジア国際会議」、アジアから世界へ向けた知の発信とデジタルアート&デザインの普及啓蒙を目的とした「アジアデジタルアート大賞」など、数々のアジア関連のコンベンション・イベントが開催されている。

また、アジアの文化・芸術・学術をテーマとして平成2年にスタートした「アジアマンス」や、福岡青年会議所が中心となり多くの市民ボランティアによって運営されている「アジア太平洋こども会議・イン福岡」など地域に根付いた交流事業などにより、外国人との交流に好意的な住民意識が醸成されている。

(8) 手厚いベンチャー育成システム

福岡では、「スタートは福岡で、活躍は世界で」をキャッチフレーズに、ベンチャー企業と投資家などビジネスパートナーとのマッチングを行う場として「フクオカベンチャーマーケット」を開催するとともに、ビジネスプラン作成や経営・マーケティングの指導、若手起業家に対する研究開発費の助成、ベンチャー企業と大手企業の交流など、全国で最も手厚いかつユニークなベンチャー育成支援事業を実施し、数多くの成果を収めている。

(9) 住みやすく働きやすい都市環境、ベストシティの評価

福岡市は、香港の週刊誌「ASIA WEEK」誌の「アジアのベストシティ」調査において、平成9年、平成11年、平成12年と第1位の評価を受けた。活気あふれる大小の商業施設・飲食店、劇場、映画館などの生活インフラ、都心の直近に存在する豊かな自然環境、主要都市と直結し充実した交通インフラなどの都市機能が総合的に評価された結果である。

また、外国人居住者が安心して教育サービスを楽しむことができるよう、インターナショナルスクールの機能充実や安心の医療サービスを楽しむ環境を整えているところである。

(10) アジアビジネスを目指す企業活動の活発化

福岡はこれまでもアジア志向の強い企業が集積しているが、近年、東アジアの主要都市と2時間程度で結ばれている最適のロケーションや都市機能、産業政策の取組等が改めて高い評価を得つつある。この1月ソニーがアジアのマネジメントを見据えた新しい社会システムの開発拠点を立ち上げるとともに大手商社が中国ビジネスの拠点としての機能を整備するなどアジアビジネスの拠点化の動きが加速してきており、あわせてアジアと日本の連携拠点として研究開発部門や営業部門を設置しようとする内外企業の動きが活発化してきている。

5 構造改革特別区域計画の意義

わが国の経済活性化を図る上で重要なことは、今後とも高い成長が見込まれるアジアとの関係を強化することである。

福岡アジアビジネス特区は、地理的、歴史的、経済的にアジアとの結びつきが強く、また、高度な学術機能や産業集積、交通・情報インフラ等を有するという福岡の地域特性を生かして日本とアジアの産業の連携拠点としての地位を確立しようとするものである。

本地区ではこれまでも、アジア諸地域との協調という視点に立って、アジアにおけるシステムL S I設計開発拠点をめざすシリコンシーベルト福岡プロジェクトをはじめ、福岡バイオバレープロジェクト、福岡ナノテクプロジェクトなど、産学官一体となった産業プロジェクトの展開や、ベンチャー企業の育成、物流機能の高度化等の取組を積極的に進めてきており、これらの取り組みは着実に実を結んできたという実績を持っている。

本計画も、「アジアとの連携による産業の発展を図る」という発想に立って策定するものであり、福岡の地域特性を最大限生かして、海外の人材の活用、操業促進、産学連携強化、港湾機能の強化等の分野における規制緩和を導入し、各種プロジェクトの加速的な推進を図るとともに、九州・西日本の市民生活や経済活動を支える流通拠点港湾「博多港」において、国際水準の港湾インフラ整備やコスト・サービスの実現などにより、産業の国際競争力強化を図りながら、アジアビジネスを目指す内外企業の研究開発、営業、アジア統括、生産等の拠点の集積を促進し、「地域経済の活性化」をめざすものである。

また、「アジアと日本」、「産と学」等の壁を取り払い、「人・もの・技術・情報」の流動化による地域活性化モデルを示すことにより、「わが国の構造改革の推進」に貢献するという大きな意義を有するものである。

なお、本計画の推進に当たってはバイオ分野やIT分野での内外企業の集積を目指す、久留米アジアバイオ特区、飯塚アジアIT特区との連携を図ることにより、高い相乗効果が見込まれる。

6 構造改革特別区域計画の目標

本計画は、アジアとの強い結びつき、高い学術機能や産業集積、交通インフラや情報インフラの充実等、福岡の地域特性を生かし、九州・西日本の市民生活や経済活動を支える流通拠点港湾である博多港の国際ゲートウェイ機能を強化しながら、アジアビジネスを目指す内外企業やベンチャー企業の集積（研究開発拠点、営業拠点、アジア統括拠点、生産拠点等）を促進し、もって、アジアと日本の産業の連携拠点となる特区を目指すものである。

このため、本計画では次の考え方に基づいて、各種関連事業及び特定事業を積極的に実施し、九州・西日本の経済活性化、ひいては日本経済の再生に貢献する。

(1) アジアビジネス支援機能の強化

アジアにおけるビジネス展開に関して必要なノウハウ等を蓄積、提供することで、企業の円滑なアジアビジネス展開を支援し、内外企業が福岡を活動拠点とするインセンティブを強化する。

具体的には、福岡アジアビジネス支援センターの整備や、eアジアマーケットプレイス福岡の推進等により、海外企業の立地やアジアと県内企業の取引等の面における支援を拡充する。

(2) アジアビジネスの人材育成

経営及び技術双方の分野におけるビジネスエキスパートの育成により、戦略的産業分野の企業を中心として人材調達を支援し、内外企業が福岡を活動拠点とするインセンティブを強化するとともにベンチャー育成の土壌とする。

具体的には、九州大学ビジネス・スクール、福岡システムL S Iカレッジ、高度IT人材アカデミー等の教育システムにより高度人材の育成を図るとともに、九州大学ビジネス・スクールの留学生については、夜間大学院留学生受入れの特例を活用する。

(3) 産学連携（研究開発）の強化

九州大学をはじめとする学術研究機関と産業界の連携を様々な形で支援することにより、企業の研究開発機能の高度化や新技術と新産業の創出を促進し、内外企業が福岡を活動拠点とするインセンティブを強化する。

具体的には、シリコンシーベルト福岡(システムL S I設計開発拠点化)プロジェクトをはじめIT、バイオ、ナノ等の分野における産学官共同プロジェクトを展開するとともに、民間企業の国有施設（大学）等の使用、国立大学教員等の技術移転兼業及び研究成果活用兼業の特例を活用することにより、大学の研究成果の社会還元を図る。

(4) ベンチャー育成

創業環境を整備することにより産業集積の厚みを増し、経済の相互作用を促進し、活力のある経済活動地域を目指す。

具体的には、ふくおかベンチャーマーケット等の事業を実施し創業環境を整えるとともに、外国人研究者の経営活動、民間企業の国有施設（大学）等の使用及び国立大学教員等の研究成果活用兼業の特例を活用する。

(5) 戦略的産業分野の育成

アジアの諸地域と伍していくために、IT（システムL S I等）、バイオ、ナノ等の先端分野の戦略的な育成・集積を図り、特区内の産業の競争力強化を図る。

具体的には、シリコンシーベルト福岡(システムL S I設計開発拠点化)プロジェクトをはじめ、IT、バイオ、ナノ等の分野における諸事業を展開するとともに、外国人研究者及び外国人情報処理技術者の受入れ促進、民間企業の国有施設(大学)等の使用、国立大学教員等の技術移転及び研究成果活用兼業に関する特例の活用により、先端的かつ高度な研究・開発・事業活動の促進を図る。

(6) アジアにおける国際ハブ港湾の形成

アジアの主要港と伍していくために、港湾機能の整備を図るとともに、より有利な条件を提示し、より多くの外貿船舶を招致し、貿易の振興を図る。

具体的には、水深15mの岸壁を備えた外貿コンテナターミナルの整備や、IT活用による港湾整備を進めるとともに、既存埠頭の効率的運営と民間の経営能力を活用する特定埠頭運営効率化の推進、臨時開庁手数料の軽減、税関の執務時間外通関、自動車の回送運行時における仮ナンバー表示、公有水面埋立地の用途変更に関する特例を活用する。

これらの取り組みを進めることにより、本区域において世界で最も成長が著しいアジアとわが国との産業連携を強化するビジネス拠点を形成する。

- 7 構造改革特別区域計画の実施が構造改革特別区域に及ぼす経済的社会的影響
「外国人研究者受入れ促進事業」、「外国人情報処理技術者受入れ促進事業」、「国有施設等の廉価使用の拡大による研究交流促進事業」、「特定埠頭運営効率化推進事業」、「臨時開庁手数料の軽減による貿易の促進事業」、「税関の執務時間外における通関体制の整備による貿易の促進事業」等の特定事業及び関連事業の実施により、博多港の国際ゲートウェイ機能を強化しながら、アジアビジネスを目指す国内外の企業やベンチャー企業の集積が促進される。このことにより、九州・西日本の経済活性化が図られるとともに、その成功事例を全国に波及させることにより、我が国の経済活力増進に資することが出来る。

おおむね10年間で、次の経済的社会的効果を見込んでいる。

国内外の企業誘致・創出	約700件
生産額の増加	約2,850億円
雇用創出	約20,000人

経済効果内訳

区 分	社会的経済的效果 (内 訳)			
	(合計)	アジアビジネス関係	港湾物流関係	重複分
国内外の企業誘致・創出	約 700件	約 700件	-	
生産額の増加	約 2,850億円	約 1,677億円	約 2,028億円	約 855億円
雇用創出	約20,000人	約15,000人	約14,000人	約 8,400人

博多港に関連する産業で創出される生産額及び雇用（港湾物流関係）のうち、アジアビジネス関係と重複する産業の生産額・雇用創出分については控除している。

今後10年間で、アジアビジネス関係における国内外企業誘致・創出件数及び港湾物流関係における博多港の国際海上コンテナ取扱の増加量が一定と仮定した場合、1年あたりの経済社会的効果は上表の10%と見込まれる。なお、この場合の博多港の国際海上コンテナ取扱量は、5年後には約7万TEUの増加が見込まれる。

特定事業は、特区認定後直ちに実施する予定であるが、特定事業及び関連事業の実施後、短期間に顕在化する経済的社会的効果としては、システムL S I 総合開発センター（仮称）のインキュベート施設の新設（40室）により、相当数のベンチャー企業の創出が見込まれるほか、「外国人研究者受入れ促進事業」及び「外国人情報処理技術者受入れ促進事業」に伴う外国人研究者及び外国人情報処理技術者の雇用増加や「特定事業等に係る外国人の入国・在留諸申請優先処理事業」等をはじめとするアジアビジネスの拠点機能の充実によって、国内外の企業の誘致が加速することが見込まれる。

また、博多港については、「特定埠頭運営効率化推進事業」、「臨時開庁手数料の軽減による貿易の促進事業」、「税関の執務時間外における通関体制の整備による貿易の促進事業」などの特区制度の活用と港湾のIT化、航路誘致や民間の24時間化を促す取り組みを行い、国際ゲートウェイ機能の強化策を実施することによって国際海上コンテナ取扱量は毎年度着実に増加し、貿易が促進されることは明らかで、これに伴う生産額及び雇用の増加が見込まれる。さらに、「自動車の回送運行時における仮ナンバー表示の柔軟化事業」は、自動車メーカーにとって、直接、業務の効率化が図られるものであって、企業は経費節減効果を期待している。

8 特定事業の名称

- 国立大学教員等の勤務時間内技術移転兼業事業（２０１）
- 国立大学教員等の勤務時間内研究成果活用兼業事業（２０２）
- 外国人研究者受入れ促進事業（５０１，５０２，５０３）
- 特定事業等に係る外国人の入国・在留諸申請優先処理事業（５０４）
- 外国人情報処理技術者受入れ促進事業（５０７）
- 夜間大学院留学生受入れ事業（５０８）
- 臨時開庁手数料の軽減による貿易の促進事業（７０１）
- 税関の執務時間外における通関体制の整備による貿易の促進事業（７０２）
- 国の試験研究施設の使用手続きの迅速化事業（７０４）
- 国の試験研究施設の使用の容易化事業（７０５）
- 国有施設等の廉価使用の拡大による研究交流促進事業（８１３）
- 国有施設等の廉価使用の拡大による研究交流促進事業（８１４）
- 国有施設等の廉価使用の拡大による研究交流促進事業（８１５）
- 公有水面埋立地の用途変更等の柔軟化事業（１２０１）
- 特定埠頭運営効率化推進事業（１２０３）
- 自動車の回送運行時における仮ナンバー表示の柔軟化事業（１２０４）

9 構造改革特別区域において実施し又はその実施を促進しようとする特定事業に関連する事業その他の構造改革特別区域計画の実施に関し地方公共団体が必要と認める事項

福岡アジアビジネス特区の実効性を高めるため、以下の関連事業を実施する。

(1) アジアビジネス支援機能の強化

福岡アジアビジネス支援センターの設置

アジア展開を目指す欧米企業や日本進出をねらうアジア企業、さらにＩＴ、バイオ、ナノ関連等、県と市が戦略的に育成している産業分野の企業を主なターゲットとして誘致を進め、誘致対象企業に対し、業務・生活面のワンストップサービスを実現する。

平成１４年１１月には、国際ビジネスに豊富な経験を有する元大手証券会社役員をセンター長に迎え、海外企業誘致センターを設立した。

今後は、アジア展開を目指す欧米企業や日本進出をねらうアジア企業などに対して、業務・生活面のワンストップサービス機能を提供できる体制づくりを行う。

複合コンベンションゾーンの整備

平成１５年３月、博多港中央ふ頭と博多ふ頭を結ぶウォーターフロントである

「博多びあトピア地区」に福岡国際会議場が開館し、既存の福岡国際センター、マリメッセ福岡、福岡サンパレスと併せて、九州最大規模の複合コンベンションゾーンが形成される。これらの施設を一体的に利用することで、展示会、学術会議、集会、大会など多様なコンベンションが可能となる。

福岡国際会議場は、1,000人収容のメインホール、多目的ホール、国際会議室、中小会議室を備えるほか、同時通訳ブースなど最新機能を備えており、国内外から約15,000人の参加が見込まれている国際青年会議所世界会議をはじめとして、国際宇宙航行会議、世界政治学会世界大会など大規模国際会議の開催が決定している。

eアジアマーケットプレイス福岡の開設

平成14年6月、(株)アイ・ビジネスセンター(飯塚市)が運営主体となり、(財)福岡県中小企業振興センター(電腦商社)との連携のもと、住友商事、三井物産等のサポートを得て、地域企業とアジア企業を結ぶ国際電子商取引市場「Nextr@de(ネクストレード)」を創設した(プロジェクト名:eアジアマーケットプレイス福岡)。

この取引市場は、インターネット上で国境をまたいで製品・原材料を購入・販売するシステムで、商社中枢機能を取り込むことにより物流、決済等の機能も備える。また、「共同購入機能」により、単独では発注量が少ない地域中小企業でも国際ビジネスを展開できる。

取引対象は、電気電子機械等関連の工業部材を始め、事業所用間接財・汎用品、日用品をニーズに応じて取り扱う。

現在、電腦商社登録企業約14,000社を中心とした福岡県の中小企業と、香港貿易発展局(TDC:香港)、台北世界貿易センター(CETRA:台湾)、大韓貿易投資振興公社(KOTRA:韓国)、タイ商務省輸出振興局(DEP:タイ)、タイ国投資委員会(BOI:タイ)のポータルサイト参加中小企業との貿易取引を推進中である。

[eアジアマーケットプレイス福岡の主な機能]

) ID(信用調査、与信枠設定)

企業が海外の取引関係のない企業との取引を検討するに当たって、相手方の企業情報を提供することにより、海外における積極的な取引展開を支援する。また、与信枠設定とは、商社金融、金融決済会社SNSCなどの中小企業への与信行為を含む決済システムである。

) 企業ニーズ・シーズの照合、マッチング

企業のニーズ・シーズを掘り下げていくことにより、海外の情報網を生かして最適なパートナーを紹介し、事業展開を支援する。

また、取引商品の選択はパートナー選定後に行う。

) 見積、価格交渉

見積り地から納入場所までのコスト自動計算システムにより、Nextr@de を利用し、ネット上で価格交渉が可能となる。価格交渉のための補足説明の翻訳業務を支援する。また、同時に取引条件の設定も行う。

) 共同購入

海外の売り手企業一社の同一商品を同一納入月に複数の企業で購入することにより、取引コストの低減を図る。

) 決済

商社金融に加え、SNSC（三井物産系）、セントラルファイナンス等の決済システムを活用。

) 物流

住商ロジスティックスなど全国レベルの実運送機能を活用

(2) アジアビジネスの人材育成

九州大学ビジネス・スクール

平成15年4月に、九州大学が、世界に通用するビジネスプロフェッショナルの育成を目指して、九州圏では初めての本格的ビジネス・スクールを開校した。「産業・技術」と「アジア」をキーワードとして、理論と実践を兼ね備えた教育体制の確立を図る。

実施主体	九州大学
事業実施時期	平成15年4月1日開校
事業実施施設	九州大学経済学部棟 (福岡市東区箱崎6-19-1)

開講形式 夜間及び土曜日

授業言語 日本語及び英語

特 徴

- ・技術と経営がわかるビジネスプロフェッショナルの育成
- ・実学のため外部教授、工学系分野の教授など多彩な顔ぶれの講師陣
- ・キーワードを「アジア」とし、英語の授業を設けるなどの国際性
- ・様々な分野からの学生を募るための原則夜間開講

授業科目

(基本科目)

アカウンティング、企業財務、マーケティング戦略、組織マネジメント、企業倫理、英語によるビジネス・コミュニケーション

(専門科目)

〔ビジネス戦略マネジメント分野〕

財務会計、管理会計、戦略的人的資源管理、企業戦略、マネジメントコントロール、コーポレート・ガバナンスと監査、ファイナンシャル・リスク、経営リスク・マネジメント、タックス・マネジメント、パブリックマネジメント、国際経営、中国ビジネス、企業価値と M&A、国際マーケティング、異文化コミュニケーション 等

〔産業・技術マネジメント分野〕

地域産業政策、産業と技術、生産管理、ベンチャー企業、イノベーション・マネジメント、知識マネジメント、産学連携マネジメント、知的財産管理、技術開発とリスクのマネジメント、アジアの産業と企業、国際企業分析、国際ロジスティクス、アジア多国籍企業、国際ビジネス法、先端技術分析、産業と企業、アジア・ビジネス戦略

アジア九州ビジネススクールの設置

地元経済界と自治体、九州大学等の産学官が連携してビジネススクールの設立を予定している。韓国・中国などアジアからの人材も受入れ、アジアに近い地理的な特長を生かしたアジアと九州との人的ネットワーク形成の懸け橋となることを期待している。次世代のリーダーとなる人材の育成を最大の目的としている。ケース演習、内外の著名な経営者、学者等の講義など学習と実践を組み合わせ、考える力や価値観などの能力向上に重点を置く。土日・平日夜型、2週間から3ヶ月程度の短期集中型のコースを中心に平成16年4月に福岡市内で開講する。

高度IT人材アカデミーの設置

福岡をITの拠点とするため、「最先端で高いレベルの技術を有し」かつ「企画立案から経営管理まで顧客志向の企業経営全般を見据えた総合的・戦略的なIT活用を提案できる」高度なIT人材育成のためのセンターを設立する（平成15年6月開講）。

行政と複数の民間企業との連携により事業スキームが構築され、NPOが事業を運営し、福岡へのノウハウの蓄積を図る。九州電力等の地元企業に加え、シスコシステムズ、サンマイクロシステムズ、オラクルなどの外資系企業も積極的に参加し、講師・ノウハウを提供する。

世界のトップレベルの人材養成を目的に、各企業のIT技術者やリーダークラスを主な対象とし、次の3つのタイプの人材を育成する。一つは、ネットワークやデータベースなど専門技術分野の技術者である「基幹エキスパート」。二つ目が企業トップや戦略ITマネージャーなどに不可欠なビジネス分析が出来る「ビジネスマネージャー」。三つ目がシステム技術やコンサルテーション技術、ソリューション提案の技術を持った「ソリューションエキスパート」。

今後5年間に基幹エキスパート約1800人、ビジネスマネージャー約760人、ソリューションエキスパート約700人の養成を目指す。

福岡システムL S Iカレッジ

「福岡システムL S Iカレッジ」は、産学官の有機的な連携の下、将来を担うシステムL S I設計人材を育成することにより、企業・人材の集積を図り、アジアにおけるシステムL S I設計開発拠点の形成を目指して設立された。

- ・ 平成13年2月設立
- ・ 18大学31名の教授等及び企業の高度技術者など一流の講師陣
- ・ 実習を中心とした実践的教育と質の高い独自のテキスト・教材
- ・ ソニー、日立等の大手企業やベンチャー企業等のシステムL S I設計技術者が受講

(3) 産学連携(研究開発)の強化

九州大学学術研究都市の整備

九州大学の福岡市西部へのキャンパス移転を契機として、地域の大学、産業界、自治体の連携によりアジアの知の拠点となる新しい学術研究都市づくりを進める。

また、新キャンパス及びその周辺地域において、国内外の大学、研究機関が集積する中核的研究拠点を構築するとともに、リエゾン機能、ベンチャー支援機能、国際文化学術交流機能の整備を行う。

産学官連携による戦略的産業分野の育成

IT、バイオ、ナノの戦略的産業分野において、産学関連を推進することにより、次の事業を実施する。詳細については後述の該当項目を参照。

- 「シリコンシーベルト福岡プロジェクトの展開」
- 「福岡バイオバレープロジェクト」
- 「ナノテク戦略の展開」

(4) ベンチャー育成

フクオカベンチャーマーケットの開催

ベンチャー企業と投資家等(証券会社、ベンチャーキャピタル、銀行、公認会計士グループ、ベンチャー支援グループ、商社、メーカー)とのマッチングの場として「フクオカベンチャーマーケット(FVM)」を設置し、ベンチャー企業が民民ベースで資金や技術、販路等を調達できるシステムの整備をする。

【実績・成果】

毎月20社がプレゼン

平成15年8月までに46回開催、延べ779社がプレゼン。

内訳：県内企業436社、県外企業306社、

海外企業37社（韓国19社、インド7社、香港6社、マレー
シア2社、シンガポール1社、中国1社、米国1社）

平成15年7月までのプレゼン企業767社のうち、

商談成立及び商談中の企業 499社（65.1%）

システムL S I総合開発センター（仮称）の建設

情報家電などに需要拡大が見込まれるシステムL S Iの分野において世界をリードする設計・開発拠点を構築するため、L S Iチップ試作・検証機能等、起業家のための各種設備を備えた施設を整備する。

なお、新しいシステムL S I技術、特にその設計技術の方向性を明確にし、21世紀の社会のデザインに要素技術の側面から指針を与えることを目的とした九大システムL S I研究センターが、同センターへ入居する予定である。

【「自治体から大学への寄付の規制緩和（全国で実施される措置）」の適用】

規模 約8,300㎡ 8階建て

経済産業省の大学連携型起業家育成整備事業

機能

- ・インキュベート機能（約40室）
- ・知的クラスター等の研究拠点機能

インキュベート事業

福岡市は、平成12年から博多区及び早良区でインキュベート施設を開設・運営し、創造的能力を有する個人および学生等を対象として低廉な賃料で事務所を提供し、併せて専門家による経営指導を実施している。ユニークなビジネスモデルやIT等の研究成果活用による事業展開など一定の実績・評価を上げている。

地域ファンドの創設

地域の機関投資家の参加を募り、地域ぐるみでのベンチャー育成の土壌を作り上げることにより、地元ベンチャー・中小企業への安定的資金供給を目的として、地域に密着した直接金融制度を創設するもので、平成15年度早期の設立を目指している。投資案件はフクオカベンチャーマーケット等のネットワークを活用して発掘していく。

投資スタッフは、ベンチャー企業の経営に対して日常的に適切なアドバイス（資本政策、経営戦略、人材確保、販路拡大、株式公開など）を行うことにより、投資対象ベンチャーに対する積極的サポート体制を確保する。

(5) 戦略的産業分野の育成

シリコンシーベルト福岡（システムLSI設計開発拠点化）プロジェクトの展開

福岡県に集積するシステムLSI設計開発の知的集積、産業集積を核に、アジア（韓国、九州、台湾、シンガポール等を結ぶ半導体生産のベルト地帯）地域の中核となる設計開発拠点をめざす構想で、具体的な事業としては、人材育成、研究開発・ベンチャー支援、システムLSI関係者やユーザーの交流連携推進、IP取引支援などを展開している。

なお、「シリコンシーベルト福岡」プロジェクトの一環であるシステムLSIの研究開発プロジェクトは文部科学省の「知的クラスター創成事業」に採択されている。

（人材育成）

福岡システムLSIカレッジ（参照）

（研究開発・ベンチャー支援）

システムLSI総合開発センター（仮称）（参照）

知的クラスター創成事業

- ・九州大学、福岡大学、半導体関連大手及びベンチャーの産学連携により新しい産業創出のための研究プロジェクトを推進する。
- ・20を超えるテーマごとに産学官の研究体制を組んで実施。

システムLSIフロンティア創出事業

ベンチャー企業が行うシステムLSI関連の応用・実用化研究等を支援し、次世代を担うLSI関連研究開発型企業群を創出する。

（IP取引支援）

韓国(SIPAC)、台湾(SoC Consortium)、IPTC等との協議を進めながら福岡の特長を生かしたIP取引推進機能等の整備に取り組んでいる。

福岡バイオバレープロジェクト

九州大学などのポテンシャルと産業の集積を生かして、バイオテクノロジー分野における一大産業集積拠点の形成を目指した活動を推進する。

既に、平成13年9月には、福岡県バイオ産業拠点推進会議（会員100企業・機関）を設立し、福岡地区内において次のような事業が展開されている。

県内医科系4大学連携

また、県内医科系4大学（九州大学、久留米大学、福岡大学、産業医科大学）は、連携して、九州大学生体防御医学研究所を核に、探索的臨床研究を通じてがん・感染症の新しい予防・治療薬・診断薬の開発を目指したプロジェクトを企画

提案している。

久山プロジェクト

九州大学が中心となって、近郊の久山町における40年の疫学データ及び血液サンプル(約5,000人)をゲノム解析に活用し、ゲノム創薬やテーラーメイド医療への応用を目指したデータベースの構築、生活習慣病の克服のための科学的根拠に基づいた新規治療薬、予防薬、医療技術等の開発を推進している。

なお、同構想の推進に当たっては、バイオ分野での内外企業の集積を目指す久留米アジアバイオ特区との連携を図っていく。

ナノテク戦略の展開

大学等の知的集積と地域の多様な産業集積を活用し、大学、産業界、行政が一体となった中核的な推進体制を構築し、世界をリードするナノテク産業クラスターの形成を目指す。

平成14年7月には、福岡ナノテク推進会議(設立、会員200企業・機関)を設立し、中核機関として、次の取組を展開している。

ナノ材料の研究

九州大学の新海教授を中心として、「分子情報科学の機能イノベーション」をテーマとし、分子の持つ可能性を探り革新的な機能システムを構築して人工分子知能の実現につなげる研究が、文部科学省21世紀COEプログラムの一つとして選ばれている。

大型ナノ計測機器の整備・共同利用の促進

最先端の施設・設備を研究機関・研究分野の枠を超えて産学官の研究者が利用できる環境を整備するナノテクノロジー総合支援プロジェクト(文部科学省)によって、九州大学に2つの支援グループ(「超高压電子顕微鏡解析支援」、「分子・物質総合合成・解析支援」)が設置された。また、各研究機関が有するナノ計測機器の共同利用を図るための共同利用システムも構築されている。

(6)アジアにおける国際ハブ港湾の形成

博多港の国際ゲートウェイ機能の強化

博多港は、背後都市の経済成長とともに港勢を拡大し、福岡をはじめとする九州の市民生活や経済活動を支える流通拠点港湾として着実に発展している。

博多港は、釜山、上海、高雄などのアジア主要港に近く、国際貿易を取り巻く激

しい港湾間競争の中で、これらのアジア主要港と伍していくためには、国際水準の港湾コスト・サービスの実現を図る必要がある。

このため、アジア・世界とのグローバルゲートウェイとして、外貿コンテナ貨物の増大やコンテナ船の大型化に対応するため、水深15mの岸壁を備えた外貿コンテナターミナルの整備や、ITの活用による港湾整備、さらには特定埠頭運営効率化推進事業により、既存ふ頭の効率的運営と民間の経営能力を活用し、ハード・ソフトの両面から港湾物流機能の拡充・強化を図るとともに、今後民間においても365日、24時間フルオープン化に向けた取り組みを促進する。

(7)その他

アイランドシティプロジェクト

アイランドシティ(約400ヘクタールの人工島)では、福岡市の21世紀を牽引する先進的モデル都市づくりを目指し、国際競争力のある高機能の港湾整備、九州・アジアを視野に入れた新しい産業の集積、高質な居住環境の形成、先進的な環境共生の取り組みなど、新しいまちづくり・みなとづくりを総合的に推進する。併せて、関連プロジェクトを重点的に展開し、福岡アジアビジネス特区のリーディングゾーンを形成する。

(高機能の港湾整備) 「博多港の国際ゲートウェイ機能の強化」参照

(新しい産業の集積)

少子・高齢化や情報技術の急速な進展、経済活動のグローバル化やライフスタイルの多様化などの社会経済環境の変化を見据えるとともに、知的資源や人材、アジアとの近接性や空港・港湾などの本市の潜在力を最大限に生かし、

・健康・医療・福祉(九大をはじめとした医療資源やロボット技術の集積等を活用し、アジアからの研修生や患者受け入れも視野に入れた医療産業集積拠点)

・IT(日韓光ケーブル等も活用したデジタルコンテンツ、音楽・映像などのエンターテインメント産業などの集積拠点)

などの分野において、アジアの人材や活力を積極的に取り込んだアジアビジネスの拠点形成を目指す。

(高質な居住環境整備)

こどもから高齢者まで、また子育て世帯や外国人も、健康で快適な生活を営むことができる、先進的・モデル的な教育環境が整った住環境の整備や、海に囲まれた自然環境を活かした親水性の高い緑地空間の創出など、人と自然が共生したアメニティ空間の形成を目指す。

(環境共生の取り組み)

新エネルギーや省資源システムの積極的導入、人々に憩いや潤いを提供する総合

公園やグリーンベルトを整備するとともに、環境負荷の少ない大量輸送機関である鉄道をはじめ、歩きたくするような歩道や自転車道の整備など、自動車に過度に依存しない環境に優しい交通手段・システムの導入を図る。

福岡空港の機能強化

福岡空港は、アジアとのゲートウェイとしての役割を担っており、国際便の9割がアジア路線となっている。福岡都市高速道路や南北を結ぶ九州自動車道路へのアクセスがよく、九州を中心とした後背地への利便性が高いこともあり、貿易取扱高は5年間で1.4倍になっている。そのため、増便による貨物取扱機能の拡充が必要となっている。

福岡市においては、空港の運営や整備にも国、県とともに携わっており、福岡空港は、平成11年に新しい国際旅客ターミナルビルや国際貨物ビルが供用開始され、利便性の向上が図られている。また、地元経済界と連携して、福岡空港の4カ国語併記のリーフレットやプロモーションビデオなどを使用し、国内に事務所を置く外国公館、貿易事務所、航空会社等に対して利用の促進や、国際線定期路線の開設、拡充の要望を行っている。

平成14年以降、旅客便では、中国、オーストラリアの5都市に向け、新規路線や新たな航空会社の航路開設がなされ、それに伴い、旅客便利用の貨物の取扱量が急増している。また、本年9月には、ホーチミン（ベトナム）向けの新規路線が開設された。

今後も、福岡空港のエプロンや誘導路、計器着陸装置等の整備及び外国航空会社等へのエアポートセールスを積極的に行い、新規国際路線の誘致、既設路線の充実に努め、輸出入者にとって利用しやすい地域の拠点空港としての機能強化を図っていく。

企業立地に向けた方策（地方税の特例措置等）

現在、福岡県及び福岡市は物流施設、研究開発施設、産業支援サービス及びアジアビジネス等を対象業種とする企業立地促進交付金等を設けている。これに加えて、特区計画認定後は、特区内の特定の事業・業種に対して、法人事業税、不動産取得税、固定資産税等の減免措置等を検討している。

21 福岡アジアビジネス特区推進体制等の整備

本計画の実施にあたり、福岡/九州地域で実際にアジアビジネスを行っている企業のネットワーク化を図るとともに、特定事業及び関連事業の実施、広報、新規の規制緩和等のアジアビジネス拠点形成に関する助言を得ることを目的として、行政、外国公館・貿易振興機関、経済団体、大学・学識者、産業支援機関等で構成する

「福岡アジアビジネス交流拠点推進協議会」を平成15年6月24日に組織した。

また、福岡県久留米市の「久留米アジアバイオ特区」及び福岡県飯塚市の「飯塚アジアIT特区」と相互に連携し、相乗効果を発揮するために、「福岡県アジアビジネス特区推進連絡協議会」を設立した。

これらの推進体制の整備により、特区計画の実効性の確保と目標達成のための万全の取り組みを行う。

別紙

1 特定事業の名称

国立大学教員等の勤務時間内技術移転兼業事業（201）

2 規制の特例措置の適用を受けようとする者

九州大学の教員

3 当該規制の特例措置に適用の開始の日

特区計画認定後直ちに

4 特定事業の内容

九州大学の教員が、九州大学のTLO機関である(株)産学連携機構九州において、大学の研究成果の技術移転を通して新事業、新産業の創出を図るため、技術開発等のコンサルティング活動や技術実習研修会等のセミナー活動、研究連携活動等を実施する。

なお、九州大学のキャンパスは箱崎地区（福岡市東区箱崎6丁目10番1号）、病院地区（福岡市東区馬出3-1-1）、筑紫地区（福岡県春日市春日公園6-1）、六本松地区（福岡市中央区六本松4-2-1）各地区により構成されるが、いずれも特区内に存在する。

5 当該規制の特例措置の内容

TLO機関が大学の研究成果の技術移転を進め、新事業・新産業の創出を図っていくためには、九州大学の教員がそれぞれの専門知識と能力を生かして、勤務時間内であっても公務に支障を及ぼさない範囲内で積極的に技術指導、研究連携事業、民間との交流促進事業等に参画できるようにするための規制の特例が必要である。

別紙

1 特定事業の名称

国立大学教員等の勤務時間内研究成果活用兼業事業（202）

2 規制の特例措置の適用を受けようとする者

九州大学の教員

3 当該規制の特例措置に適用の開始の日

特区計画認定後直ちに

4 特定事業の内容

九州大学の教員が自らの研究成果を生かした起業活動を促進するため、勤務時間内に兼業活動を行う。

九州大学のキャンパスは箱崎地区（福岡市東区箱崎 6 丁目 10 番 1 号）、病院地区（福岡市東区馬出 3-1-1）、筑紫地区（福岡県春日市春日公園 6-1）、六本松地区（福岡市中央区六本松 4-2-1）各地区により構成されるが、いずれも特区内に存在する。

5 当該規制の特例措置の内容

大学の研究成果を生かした新産業の振興を図るためには、国立大学の教員が勤務時間内においても公務に支障のない範囲内で自らの研究成果を生かす起業活動に積極的に取り組めるようにするための規制の特例が必要である。

別 紙

1 特定事業名称

外国人研究者受入れ促進事業(501, 502, 503)

2 当該規制の特定措置の適用を受けようとする者

(1) 次の機関との契約に基づいて当該機関の当該特区内に所在する施設において IT、
バイオ、ナノの各分野に関する研究を行なう業務に従事する外国人

- ・九州大学
- ・福岡大学
- ・財団法人九州システム情報技術研究所
- ・財団法人福岡県産業・科学技術振興財団

(2) (1) の外国人の扶養を受ける配偶者または子

3 当該規制の特定措置の適用の開始の日

特区計画認定後直ちに

(以 下 次 葉)

4 特定事業の内容

次に掲げる機関・施設において IT、バイオ、ナノの各分野に関する研究を行なう業務に従事する外国人研究者の受入を促進する。なお、各施設はそれぞれ概要記載の分野に関する研究のための活動の中核となる施設である。

機関名	施設名	所在地	概要
九州大学	大学院システム情報科学学院	福岡市東区箱崎 6-10-1 及び 福岡県春日市春日公園 6-1	情報理学、知能システム学、情報工学、電気電子工学等 IT 分野の研究を行う。教官は、箱崎地区キャンパスと筑紫地区キャンパスの二つに分散。
	大学院理学研究院	福岡市東区馬出 3-1-1	生物学系のバイオ、物理学・化学系ナノ分野の研究を行う。
	大学院農学研究院	福岡市東区箱崎 6-10-1	農林水産系バイオ分野の研究を行う。
	大学院医学部附属研究院	福岡市東区馬出 3-1-1	医学系バイオ分野の研究を行う。
	大学院工学研究院	福岡市東区箱崎 6-10-1	工学系ナノ分野の研究を行う。
	大学院総合理工学研究院	福岡県春日市春日公園 6-1	物質・エネルギー・環境を 3 本柱として融合的・先駆的・先端的な形でナノ分野の研究を行う。
	機能物質科学研究所	福岡県春日市春日公園 6-1	物質合成部門、素子開発部門、システム工学部門において IT、ナノ分野の研究を行う。
	システム LSI 研究センター	福岡県春日市春日公園 6-1	システム LSI 関連の IT、ナノ分野の研究を行う。
福岡大学	工学部	福岡市城南区七隈 8-9-1	工学系 IT、ナノ分野の研究を行う。

機関名	施設名	所在地	概要
財団法人九州システム情報技術研究所	財団法人九州システム情報技術研究所	福岡市早良区百道浜 2-1-22	財団法人九州システム情報技術研究所は福岡ソフトリサーチパーク (SRP) の IT 分野における中核的研究機関。 国際的な産学官の協調の下で、情報技術に関する研究開発、内外関係機関との交流及び協力、コンサルティング、情報の収集と提供、人材育成等を行っている。
財団法人福岡県産業・科学技術振興財団		福岡市中央区天神 1-1-1 アクロス福岡 9 階	新技術・新産業の創出を目指す中核的推進機関として、新技術の開発から新産業の創出までを一貫して支援している。 財) 福岡県産業・科学技術振興財団が中核機関となる研究開発プロジェクトについては、当財団が、外国人と特定分野の研究に従事することについて契約し、研究員として雇用し、左の研究施設に派遣する。
	九州大学(前掲)	前掲	ベンチャー企業に、システム L S I (大規模集積回路) の設計開発や試作するための施設を提供して支援する。IT、ナノ分野の研究施設。
	福岡大学(前掲)		
	財団法人九州システム情報技術研究所		
システム L S I 総合開発センター(仮称)	福岡市早良区百道浜 3 丁目地内(予定)		

5 当該規制の特定措置の内容

(特区法 15 条 1 項 1 号及び 2 号に該当することを判断した根拠を示す内容)

【IT 分野】

九州大学大学院システム情報科学研究院・学府は、平成 8 年度に、情報科学の基礎となる情報理学、産業界を支える電気工学、電子工学、情報工学などの工学諸分野、人間の知的活動と情報の認識・処理の関係を究明する認知科学や知能工学などを、工学部、理学部、大学院総合理工学研究科から分離して統合し、大学院システム情報科学研究科という全国的にもユニークな独立大学院として設置されている。同研究院・学府は、理学系、工学系、人文科学系の垣根を越え、情報理学・知能システム学・情報工学分野と、

電気電子工学を基盤とした電気電子システム工学・電子デバイス工学分野とが密接な連携をはかりつつ、幅広い先端分野の融合的発展に寄与してきており、特区内における IT 分野の研究推進の中核的役割を担っている。

また、特区内における福岡ソフトリサーチパークは、福岡ドームの隣接地にある国内屈指の情報通信関連企業の集積地。大手のコンピュータメーカーや地場情報通信関連企業を中心に約 110 社が立地し、約 6,500 人の従業員が勤務している。(財)九州システム情報技術研究所の他に、平成 13 年 11 月に「イノベーションプラザ福岡」(科学技術振興事業団所管)がオープンした。また、平成 16 年度開設を目指して「システム LSI 総合開発センター(仮称)」の建設計画も進められており、LSI 開発ベンチャーの創出、企業、研究所の集積促進が図られる。

さらに、外国人研究者が研究活動に併せて、その成果を生かした事業を自ら経営することにより、本地区における当該分野の研究の効率的推進や関連産業の発展に貢献するものと考えられる。

【バイオテクノロジー分野】

九州大学においては、生物資源環境科学府、理学部、農学部、医学部のほか薬学部などの多部門にわたり、バイオ関連の研究が実施されており、産業化の期待が高い。特に、九州大学は全国でもまれな生体防御医学研究所を有しており、これまで免疫等生体機能による防御医学の研究で国内をリードしてきた。また、トランスレーショナルリサーチのセンターとして県内にある 4 医学系大学と連携し、GMP レベルの創薬化センターの計画を有しており、産業界と連携したバイオ、ライフサイエンス分野に力を入れている。

また、福岡市が整備を進めている「アイランドシティ」では、医療系機関、企業の集積を一つのコンセプトに掲げており、九州大学を核にした医学系大学連携プロジェクト計画を中心に創薬企業、ベンチャー企業等の集積の可能性が高い。

さらに、外国人研究者が研究活動に併せて、その成果を生かした事業を自ら経営することにより、本地区における当該分野の研究の効率的推進や関連産業の発展に貢献するものと考えられる。

【ナノテクノロジー分野】

九州大学大学院工学研究院は有機分野で世界的に高いポテンシャルを持ち、特に分子集積化学においては世界の三大拠点の一つとして国内外の研究者が集まり最先端の研究が行われている。その中核となる施設である有機化学基礎研究センターには、最先端の研究機器が設置されている。また、九州大学大学院工学研究院には日本トップレベルの材料解析技術を持つ超高压電子顕微鏡室が設置されており、材料科学の研究でも高いポテンシャルを持っている。これらの二つの施設は、平成 14 年度にナノテク関連の研究を総合的に支援することを目的とした文部科学省の総合支援プロジェクトの機関に選定され、外部研究者への開放利用が積極的に進められており、今後、産業界においても九州大学のポテンシャルを活用した研究の活発化、効果的な推進が期待され、関連産業の

集積が見込まれる。

さらに、外国人研究者が研究活動に併せて、その成果を生かした事業を自ら経営することにより、本地区における当該分野の研究の効率的推進や関連産業の発展に貢献するものと考えられる。

なお、外国人研究者受入れ促進事業については、財団法人福岡県産業・科学技術振興財団が管理主体となっている文部科学省関連の知的クラスター事業（平成14年度～平成18年度）において、システム LSI の分野での産業化を目指す多数の研究フォーメーションを構築する中で、現在、外国人研究者2名と契約を交わしているほか、今後、10名程度の優秀な外国人研究者を参画させる予定。

別 紙

1 特定事業の名称

特定事業等に係る外国人の入国・在留諸申請優先処理事業（５０４）

2 規制の特例措置の適用を受けようとする者

福岡アジアビジネス特区における「外国人研究者受入れ促進事業」及び「外国人情報処理技術者受入れ促進事業」に該当する外国人

3 当該規制の特例措置の適用の開始の日

特区計画認定後直ちに

（ 以 下 裏 葉 ）

4 特定事業の内容

外国人の活動概要

(外国人研究者受入れ促進事業)

機関名	施設名	機関・施設の概要	外国人の活動内容
九州大学	大学院システム情報科学院	情報理学、知能システム学、情報工学、電気電子工学等IT分野の研究を行う。教官は、箱崎地区キャンパスと筑紫地区キャンパスの二つに分散。	特定研究活動。 (当該外国人の配偶者又は子としての活動を含む。以下同じ。)
	大学院理学研究院	生物学系のバイオ、物理学・化学系ナノ分野の研究を行う。	特定研究活動。
	大学院農学研究院	農林水産系バイオ分野の研究を行う。	特定研究活動。
	大学院医学部附属研究院	医学系バイオ分野の研究を行う。	特定研究活動。
	大学院工学研究院	工学系ナノ分野の研究を行う。	特定研究活動。
	大学院総合理工学研究院	物質・エネルギー・環境を3本柱として融合的・先駆的・先端的な形でナノ分野の研究を行う。	特定研究活動。
	機能物質科学研究所	物質合成部門、素子開発部門、システム工学部門においてIT、ナノ分野の研究を行う。	特定研究活動。
	システムLSI研究センター	システムLSI関連のIT、ナノ分野の研究を行う。	特定研究活動。

機関名	施設名	機関・施設の概要	外国人の活動内容
福岡大学	工学部	工学系 I T、ナノ分野の研究を行う。	特定研究活動。
財団法人九州システム情報技術研究所	財団法人九州システム情報技術研究所	財団法人九州システム情報技術研究所は福岡ソフトリサーチパーク (SRP) の中核的研究機関。 国際的な産学官の協調の下で、情報技術に関する研究開発、内外関係機関との交流及び協力、コンサルティング、情報の収集と提供、人材育成等を行っている。	特定研究活動。
財団法人福岡県産業・科学技術振興財団	九州大学（前掲）	財団法人福岡県産業・科学技術振興財団が外国人と特定分野の研究に従事することについて契約し、研究員として雇用し、左の研究施設に派遣する。	特定研究活動及び特定研究事業活動。
	福岡大学（前掲）		
	財団法人九州システム情報技術研究所	財団法人福岡県産業・科学技術振興財団が外国人と特定分野の研究に従事することについて契約し、研究員として雇用し、左の研究施設に派遣する。	
	システム L S I 総合開発センター（仮称）		

(外国人情報処理技術者受入れ促進事業)

機関(事業所)名	機関(事業所)の概要	外国人の活動内容
株式会社 正興電機製作所 (代表取締役社長 土屋 直知) (住所 福岡市博多区東光 2 - 7 25)	発電所制御システム、上下水道監視制御など電力、公共、産業分野のシステム機器及び電気・電子機器器具、ソフトウェアの製作、販売。新事業として、生物センサーによる水質管理装置の販売やeラーニング事業にも取り組んでいる。	特定情報処理活動 (当該外国人の配偶者又は子としての活動を含む。以下同じ。)
株式会社 エーエスピーランド (代表取締役社長 有江 勝利) (住所 福岡市博多区東光 2 - 7 25)	正興電機製作所の社内ベンチャー企業。営業ソフトを ASP 方式(インターネットを介して配信)で提供。	特定情報処理活動
株式会社 ビーシーシー (代表取締役社長 富田 峰雄) (住所 福岡市中央区六本 松 2 - 12 - 19 BCCビル)	アウトソーシング、ソフトウェア開発、コンピューター販売・保守、データエントリーサービス、VAN サービス、オンラインネットワークサービス、コンサルテーションなどの事業を行う。	特定情報処理活動
株式会社 富士通九州システムエンジニアリング (代表取締役社長 柴田 善次郎) (住所 福岡市早良区百道 浜 2 - 2 - 1 富士通九州 R&D センター)	スマートマーカーキュリック、セキュアネットワークソリューション、モバイルソリューション、トレーニングサービス、CAE コンサルティングサービス、ISO 関連サービス、CAD データ交換アウトソーシングサービス、WebSERVE などの事業を行う。	特定情報処理活動

株式会社 シー・エス・エル (代表取締役社長 上林 茂) (住所 福岡市博多区 博多駅前3-9-1 大賀博多 駅前ビル2階)	経営コンサルタント、コンピューターシステムの開発及び販売、コンピューター機器の販売、コンピューター業務支援システムの賃貸及び保守、管理、コンピューターソフトウェアに関するシステムコンサルティングなどを行っており、主にソフトプロダクト及びサービス関連、ASP、インターネット業務などの事業を行う。	特定情報処理活動
---	---	----------

5 当該規制の特例措置の内容

「2」及び「4」に記載した内容から要件を満たすものと認めた。

別紙

1 特定事業の名称

外国人情報処理技術者受入れ促進事業（５０７）

2 当該規制の特例措置の適用を受けようとする者

（１）次の機関との契約に基づいて当該機関の当該特区内に所在する事業所において、
情報処理分野の業務に従事する外国人

- ・ 株式会社 正興電機製作所
- ・ 株式会社 エーエスピーランド
- ・ 株式会社 ビーシーシー
- ・ 株式会社 富士通九州システムエンジニアリング
- ・ 株式会社 シー・エス・エル

（２）（１）の外国人の扶養を受ける配偶者または子

3 当該規制の特定措置の適用の開始の日

特区計画認定後直ちに

（以下別葉）

4 特定事業の内容

次に掲げる事業所において、外国人情報処理分野技術者の受け入れを促進する。

事業所名	所在地	概要
株式会社 正興電機製作所	福岡市博多区東光 2 - 7 - 2 5	発電所制御システム、上下水道監視制御など電力、公共、産業分野のシステム機器及び電気・電子機器器具、ソフトウェアの製作、販売。新事業として、生物センサーによる水質管理装置の販売や eラーニング事業にも取り組んでいる。
株式会社 エーエスピーランド	福岡市博多区東光 2 - 7 - 2 5	正興電機製作所の社内ベンチャー企業。営業ソフトを ASP 方式（インターネットを介して配信）で提供。
株式会社 ビーシーシー	福岡市中央区六本松 2 - 1 2 - 1 9 BCC ビル	アウトソーシング、ソフトウェア開発、コンピューター販売・保守、データエントリーサービス、VAN サービス、オンラインネットワークサービス、コンサルテーションなどの事業を行う。
株式会社 九州富士通システム エンジニアリング	福岡市早良区百道浜 2 - 2 - 1 富士通九州 R&D センター	スマートマーカーキュリック、セキュアネットワークソリューション、モバイルソリューション、トレーニングサービス、CAE コンサルティングサービス、ISO 関連サービス、CAD データ交換アウトソーシングサービス、WebSERVE などの事業を行う。
株式会社 シー・エス・エル	福岡市博多区博多駅前 3 - 9 - 1 大賀博多駅前ビル	経営コンサルタント、コンピューターシステムの開発及び販売、コンピューター機器の販売、コンピューター業務支援システムの賃貸及び保守、管理、コンピューターソフトウェアに関するシステムコンサルティングなどを行っており、主にソフトプロダクト及びサービス関連、ASP、インターネット業務などの事業を行う。

5 当該規制の特例措置の内容

(特区法第22条第1号及び第2号に該当することを判断した根拠を示す内容)

一．特区内において、百道地区、JR博多駅周辺、天神・大名地区などを中心に、情報処理産業関連の事業所の立地が進んでおり、国内屈指の集積地となっている。

とりわけ、百道地区内に立地する福岡ソフトリサーチパークでは、大手のコンピューターメーカーや地場情報通信関連の事業所を中心に約110社が立地し、約6,500人の従業員が勤務している。同パーク内には、(財)九州システム情報技術研究所の他に、平成13年11月に「イノベーションプラザ福岡」(科学技術振興事業団所管)がオープンした。また、平成16年度開設を目指して「システムLSI総合開発センター(仮称)」の建設計画も進められており、LSI開発ベンチャーの創出、事業所及び研究所の集積促進が期待できる。

一方、九州大学大学院システム情報科学研究所・学府は、より実践的な教育及び研究をおこなうため、平成8年度に、情報科学の基礎となる情報理学、産業界を支える電気工学、電子工学、情報工学などの工学諸分野、人間の知的活動と情報の認識・処理の関係を究明する認知科学や知能工学などを、工学部、理学部、大学院総合理工学研究科から分離して統合し、大学院システム情報科学研究科という全国的にもユニークな独立大学院として設置されており、特区内における情報処理産業の研究推進の中核的役割を担っている。

なお、情報処理関連企業の研究開発技術の高度化に資するため、シリコンシーベルト福岡(システムLSI設計開発拠点化)プロジェクトをはじめとする情報処理分野に関連した事業を、これらの事業所と大学・関連研究施設を含む産学官連携のもとで推進しており、特区内の情報処理産業の発展が相当程度見込まれると判断される。

二．韓国、シンガポール、香港、台湾などのアジアにおける情報処理関連の先進地域と連携しつつ、アジアにおける情報処理分野を含むビジネスの拠点を形成していくためには外国人情報処理技術者が必要であり、同技術者が、特区内の事業所において自然科学又は人文科学の分野に属する技術又は知識を要する情報処理に係る業務に従事する活動を行うことにより、特区内における情報処理産業の発展に貢献するものと考えられる。

別 紙

1 特定事業の名称

夜間大学院留学生受入れ事業（508）

2 当該規制の特例措置の適用を受けようとする者

九州大学

3 当該規制の特例措置の適用の開始の日

特区計画認定後直ちに

4 特定事業の内容

名 称	所在地	概 要
九州大学 (総長 梶山千里)	福岡市東区 箱崎6 - 1 0 - 1	九州大学は、約1世紀にわたる歴史を有する総合大学。学生約16,800、教官約2,220、職員約2,120名が在籍し、10学部、15学府、15研究院、3附置研究所、3附属病院などを擁している。
九州大学ビジネス・スクール (九州大学大学院経済学府産業マネジメント専攻)	福岡市東区 箱崎6 - 1 9 - 1 (九州大学経済学部棟内)	九州圏では初めての本格的なビジネススクールとして、平成15年4月開学。 世界に通用するビジネスプロフェッショナルの育成を目指すと同時に、「産業・技術」と「アジア」をキーワードとして、理論と実践を兼ね備えた教育体制の確立を図る。 開講形式： 平日の夜間及び 土曜日（集中講義がある場合） 授業言語： 日本語及び英語 授業科目： MBA ベーシックスという「全員必修となる基礎科目」のほか、選択必修となる専門科目として「ビジネス戦略マネジメント分野」、「産業・技術マネジメント分野」からなる。その他、プロジェクト演習及びインターンシップを科している。

5 当該規制の特例措置の内容

「福岡アジアビジネス特区」は、本特区計画の目標のひとつとして「アジアビジネスの人材育成」を掲げ、具体的には、九州大学ビジネス・スクール（九州大学大学院経済学府産業マネジメント専攻）を当該高度人材の育成を図る教育機関として位置づけている。九州大学ビジネス・スクールは、本年4月に開学した九州圏で初の本格的なビジネス・スクールであり、世界に通用するビジネスプロフェッショナルの育成、とりわけ経営と産業技術をよく理解し、アジアで活躍できるビジネスプロフェッショナルの育成を目指している。これに基づき、アジアでビジネス展開を図ろうとする者、将来母国でのビジネス活動に従事しようとするアジア出身者を入学対象の2大タイプとし、外国人も対象としているため外国人留学生を相当数入学させる必要がある。当該特定事業を活用することにより、現状では外国人留学生に対しては昼間のプログラムを用意することにより昼夜開講として受け入れを行っているところ、社会人を含む他の日本人の学生と同様の専ら夜間に開講されるカリキュラムによって外国人留学生を募集することが可能となり、より多くの海外の優秀な人材が外国人留学生として在籍することが期待されることから、本特例の適用が必要とされる。

本スクールはアジアビジネスで活躍する人材（MBA 資格者）を育成するべく厳格な学生管理と教育カリキュラムを展開しており、当該留学生と社会人を含む日本人学生とが同じ講義に参加しかつ交流する機会を得られることによって、内外の学生が知識と経験をシェアし相互に刺激を与え合うことでアジアビジネスにおける経営と産業技術の研究・教育に関してより高い効果を得ることが期待される。また、アジア諸国の留学生をアジアビジネスのエキスパートとして輩出することによりアジア諸国から信頼されるビジネス・スクールとして、これらの国々の大学等の研究教育機関と連携を深め、将来、より優秀な留学生を多数確保し、更に高度な教育効果を得ることが可能となる。以上のことから当該特区での本特例の適用によるアジアビジネスにおける経営と産業技術のエキスパートの人材育成が地域の教育・研究活動の活性化等に資すると判断される。

一方、留学生の在籍管理については、学府事務室の学生掛および庶務掛において、在留資格認定証明書等の申請および資格外活動許可申請の指導・許可及び稼働先等の把握をおこない、学籍管理や連絡先の管理については学生掛において担当している。また、万一、留学生の欠席が続く場合を想定し、学生掛による留学生宅等への直接のコンタクトに加え、入国管理局からの要請がある場合には同局に協力し適正に対処する体制を敷いている。

また、特に留学生については、学府研究院に生活指導専任の留学生担当教官（文部教官講師）を配置し、留学生の就学及び資格外活動を含む生活全般に関する相談や指導にあたっており、その状況は、留学生担当教官から指導教官に直接報告されることになっている。

なお、本スクールでは、プロジェクト演習（必修）の指導教官が、課程修了までの個別指導教官となるので、留学生を含むすべての学生の就学状況等がマンツーマンで個別に管理されており、留学生の就学状況や在留資格認定証明書交付申請、資格外活動許可申請な

どの各種申請手続きについて、関係の事務担当掛と緊密な連携を保っている。

別紙

1 特定事業の名称

臨時開庁手数料の軽減による貿易の促進事業（701）

2 当該規制の特例措置の適用を受けようとする者

博多港及び福岡空港で輸出入を行う者

3 当該規制の特例措置の適用開始の日

特区計画認定後直ちに

4 特定事業の内容

博多港及び福岡空港で輸出入される貨物について、輸出入者や通関業者が時間外の通関申告を行いやすくなるよう、税関の臨時開庁手数料を2分の1に軽減することにより、輸出入に係るトータルコストの低減と輸送時間の短縮を図り、貿易を促進するもの。

なお、対象地域は、博多港の臨港地区及び福岡空港周辺地域とする。

5 当該規制の特例措置の内容

- (1) 福岡市の博多港においては、本船荷役を364日24時間体制で行っており、コンテナターミナルは土曜日も平日同様（7：30 - 17：00）にオープンしている。さらに、平成14年10月から実施されている税関の執務時間外通関体制の試行に合わせ、時間外通関に応じたコンテナターミナル業務（検査のためのコンテナシフト、ゲートオープン）を実施するなど、税関の執務時間外における貨物の積み卸し又は運搬が可能な体制となっている。

また、福岡空港内にある門司税関福岡空港税関支署では、飛行機の発着時間（7：00 - 22：00）に対応した通関体制を整備されており、既に、臨時開庁も相当数の実績がある。

- (2) 門司税関博多税関支署（博多港）における臨時開庁申請件数は、平成12年が875件、平成13年が813件、平成14年が979件である。税関の執務時間外通関体制の試行が開始された平成14年10月15日から平成15年1月14日までの3ヶ月間の輸出入申告件数は349件で、前年同期の4.65倍と全国で最も高い伸び率となっており、時間外通関の需要が多い。また、門司税関福岡空港税関支署における臨時開庁の実績は平成12年が8,425件、平成13年は7,141件、平成14年度は8,547件となっている。（それぞれ年間365回以上に達する）

(3) 博多港では、一層の貿易促進を図るため、官民の博多港関係者で構成する「使いやすい博多港づくり協議会」にワーキンググループを設置し、港湾利用コストの低減や24時間364日フルオープン化に向けた施策の検討を行ってきた。

今後、民間事業者では、事業協同組合によるコンテナターミナル業務協業化の推進や、各種コンテナ関連施設の集約化・一元管理による施設利用コストの低減などを行う予定である。また、港湾管理者においても、例えば、入港料や岸壁使用料の減免など外航定期船を対象とした港湾施設使用料の引き下げや、日曜荷役の促進につながる港湾施設使用料の設定などの検討を行っており、できるだけ早い時期に実施する予定である。(別添資料参照：博多港における「使いやすい博多港づくり」を目指した取り組み)

また、福岡空港では、以前から、地元経済界と連携して、海外空港会社等に対して国際線定期路線の開設、拡充の要望を行っているが、平成14年以降、旅客便では、中国、オーストラリアの5都市に向け、新規路線や新たな航空会社の航路開設がなされ、それに伴い、旅客便利用の貨物の取扱量が急増している。また、本年7月には、ホーチミン(ベトナム)向けの新規路線が開設される予定である。

今後も、輸出入者にとって利用しやすい地域の拠点空港としての機能を高めるため、福岡空港のエプロン整備や外国航空会社等へのエアポートセールスを積極的に行い、新規国際路線の誘致、既設路線の充実を図っていく。

これらの取り組みにより、貨物取扱量が更に増大し、海外に向けた早朝出発便や海外からの夜間到着便などを利用した輸出入貨物の増加により、時間外における通関業務が増加するものと想定される。

福岡空港国際線開設状況

〔平成14年〕

- ・成都便 2往復/週(中国国際航空)
- ・ケアンズ便 3往復/週(オーストラリア航空)

〔平成15年〕

- ・上海便 5往復/週(日本航空)
- ・瀋陽便 2往復/週(中国南方航空)
- ・大連便 3往復/週(中国南方航空)
- ・ホーチミン便 3往復/週(予定)

別紙

1 特定事業の名称

税関の執務時間外における通関体制の整備による貿易の促進事業（702）

2 当該規制の特例措置の適用を受けようとする者

博多港で輸出入を行う者

3 当該規制の特例措置の適用開始の日

特区計画認定後直ちに

4 特定事業の内容

船舶の遅れ等による急な時間外通関の要請や、週末の需要等にも対応できるよう、博多港において、税関の執務時間外に職員を配置する体制を整備することにより、輸出入貨物の輸送時間の短縮・定時性の向上を図り、貿易を促進する。

なお、対象地域は、博多港の臨港地区とする。

5 当該規制の特例措置の内容

博多港では、税関の執務時間外通関体制の試行が開始された平成14年10月15日から平成15年1月14日までの3ヶ月間の時間外輸出入申告は349件で、前年同期と比較して4.65倍と大きく増加しており、臨時開庁に対する潜在的需要が顕在化した。

門司税関博多税関支署（博多港）における臨時開庁申請件数は、平成13年が813件、平成14年が979件である。執務時間外通関体制の試行実施前である平成13年の臨時開庁申請件数をベースとして、時間外通関（税関職員の常駐）体制の整備による臨時開庁申請件数を推計すると、試行期間中の輸出入申告件数の伸び率4.65倍から、 $813 \times 4.65 = 3,780$ 件/年となる。平日夜間の17:00～21:00及び土曜・日休日の8:30～17:00の年間総時間数は約2,000時間であり、博多港では1時間当たり1件以上の臨時開庁申告件数が十分に見込める。また、臨時開庁手数料の軽減による貿易の促進事業（701）による臨時開庁手数料の減免と組み合わせることにより、さらに臨時開庁申請件数が増えると考えられる。

民間においても、本船荷役を364日24時間体制で行っており、コンテナターミナルは、平日7:30～17:00、土曜日も平日同様にオープンしている。また、平成14年10月から実施されている税関の執務時間外通関体制の試行に合わせ、時間外通関に応じたコンテナターミナル業務（検査のためのコンテナシフト、ゲートオープン）を実施している。

博多港では、一層の貿易促進を図るため、官民の博多港関係者で構成する「使いやすい博多港づくり協議会」にワーキンググループを設置し、港湾利用コストの低減や364日24時間フルオープン化に向けた施策の検討を行ってきた。

今後、民間事業者では、事業協同組合によるコンテナターミナル業務協業化の推進や、各種コンテナ関連施設の集約化・一元管理による施設利用コストの低減などを行う予定である。また、港湾管理者においても、例えば、入港料や岸壁使用料の減免など外航定期船を対象とした港湾施設使用料の引き下げや、日曜荷役の促進につながる港湾施設使用料の設定などの検討を行っており、できるだけ早い時期に実施する予定である。

したがって、門司税関博多税関支署において、平日の17:00～20:00及び土曜日の8:30～17:00の時間帯に職員の常駐を要請するとともに、その他の時間帯についても、事前要請が必要となっている臨時開庁手続きを、当日申請でも可能となる措置を講じられるよう要請する。また、今後において常駐時間以外であっても、1時間1件以上の申請需要が顕在化した時点で、体制の見直しが行われるよう希望する。

なお、税関職員の常駐を希望する時間帯については、詳細について財務省と別途調整することとしたい。

別 紙

1 特定事業の名称

国の試験研究施設の使用手続きの迅速化事業（704）

2 規制の特例措置の適用を受けようとする者

九 州 大 学

3 当該規制の特例措置の適用の開始の日

特区計画認定後直ちに

4 特定事業の内容

九州大学の先端科学技術共同研究センターのレンタルラボやコラボ・ステーション 等の試験研究施設について大学と民間企業等との試験、研究、試作や、大学の研究成果を活用するインキュベート活動等、産学連携活動のための使用を促進させる。

5 当該規制の特例措置の内容

産学連携の促進による新事業の創出のためには、本区域内の中核的研究機関である九州大学の試験研究施設について大学と民間企業等とが使用する場合の手続きの迅速化のための規制の特例が必要である。

別 紙

1 特定事業の名称

国の試験研究施設の使用の容易化事業（ 7 0 5 ）

2 規制の特例措置の適用を受けようとする者

九 州 大 学

3 当該規制の特例措置の適用の開始の日

特区認定後直ちに

4 特定事業の内容

九州大学の先端科学技術共同研究センターのレンタルラボやコラボ・ステーション 等の試験研究施設を大学と民間企業等との試験、研究、試作や大学の研究成果を活用するインキュベート活動等、産学官連携活動のために使用させる。

5 当該規制の特例措置の内容

産学連携の促進による新産業の創出のためには、本区域内の中核的研究機関である九州大学の試験研究施設について民間企業等の利用を容易にするための規制の特例が必要である。

別紙

1 特定事業の名称

国有施設等の廉価使用の拡大による研究交流促進事業（８１３）

2 規制の特例措置の適用を受けようとする者

九州大学

3 当該規制の特例措置の適用の開始の日

特区計画認定後直ちに

4 特定事業の内容

九州大学の先端科学技術共同研究センターのレンタルラボ等の試験研究施設について民間企業等の廉価使用を許可し、ＩＴ、バイオ、ナノの分野において九州大学等との産学連携による研究の促進を図る。

（１）当該国の機関における当該特定の分野に関する研究に関する国以外の者との交流の実績

平成１３年度において次のような実績を有している。

	民間等との共同研究	受託研究受入れ
ＩＴ分野	２７件	２２件
バイオ分野	２１件	１３１件
ナノ分野	３５件	５０件

なお、以上のような実績に加え、九州大学では、平成６年度に、産業界等との研究協力及び学術交流を推進する先端科学技術共同研究センターを設置するなど、産官学連携に前向きに取り組んでいる。また、特区計画認定後、速やかに使用許可規定を制定するべく準備中である。なお、大学の意見は別添のとおり。

（２）当該交流の一層の促進を図ることが当該特定の分野に関する研究の効率的推進に相当程度寄与するものと認めた理由

本区域内における科学技術に関する試験研究の中核機関である九州大学は、ＩＴ、バイオ、ナノ等の分野において、共同研究等国以外の機関との研究交流について数多くの実績があり、産業振興等に寄与してきた。今後、この産学官交流の一層の促進を図ることが、わが国の科学技術振興の重点分野であるＩＴ、バイオ、ナノ技術に関する研究の効率的推進に寄与するものとする。

(3) 当該特定の分野に関する研究と関連する研究を行う国以外の者の施設の集積見込み

九州大学の周辺には、内外の I T 関連企業の研究開発部門が集積する福岡ソフトリサーチパークや、研究開発支援機関である (財) 九州システム情報技術研究所、また、I T、バイオ、ナノ関連企業の研究所等が多数存在する。また、平成 1 5 年度中にはシステム L S I の新たな研究開発拠点としてシステム L S I 総合開発センター (仮称) が市内ももち地区に整備されるなど、集積が集積を呼ぶことなどにより、九州大学の当該分野の研究と関連する研究を行う国以外の者の施設が集積するものと見込まれる。

別紙

1 特定事業の名称

国有施設等の廉価使用の拡大による研究交流促進事業（８１４）

2 規制の特例措置の適用を受けようとする者

九州大学

3 当該規制の特例措置の適用の開始の日

特区計画認定後直ちに

4 特定事業の内容

九州大学との共同研究等を実施する民間企業等が研究施設を整備するための大学敷地の廉価使用を認め、IT、バイオ、ナノ分野の研究の効率的推進を図る。

5 当該規制の特例措置の内容

(1) 当該国の機関における当該特定の分野に関する研究に関する国以外の者との交流の実績

平成13年度において次のような実績を有している。

	民間等との共同研究	受託研究受入れ
IT分野	27件	22件
バイオ分野	21件	131件
ナノ分野	35件	50件

なお、以上のような実績に加え、九州大学では、平成6年度に、産業界等との研究協力及び学術交流を推進する先端科学技術共同研究センターを設置するなど、産官学連携に前向きに取り組んでいる。また、特区計画認定後、速やかに使用許可規定を制定するべく準備中である。なお、大学の意見は別添のとおり。

(2) 当該交流の一層の促進を図ることが当該特定の分野に関する研究の効率的推進に相当程度寄与するものと認めた理由

本区域内における科学技術に関する試験研究の中核機関である九州大学は、IT、バイオ、ナノ等の分野において、共同研究等国以外の機関との研究交流について数多くの実績があり、産業振興等に寄与してきた。今後、この産官学交流の一層の促進を図ることが、わが国の科学技術振興の重点分野であるIT、バイオ、ナノ技術に関する研究の効率的推進に寄与するものとする。

(3) 当該特定の分野に関する研究と関連する研究を行う国以外の者の施設の集積見込み

九州大学の周辺には、内外の I T 関連企業の研究開発部門が集積する福岡ソフトウェアパークや、研究開発支援機関である (財) 九州システム情報技術研究所、また、I T、バイオ、ナノ関連企業の研究所等が多数存在しており、さらに平成 1 5 年度中にはシステム LSI の新たな研究開発拠点としてシステム LSI 総合開発センター (仮称) が市内ももち地区に整備されるなど、集積が集積を呼ぶことなどにより、九州大学の当該分野の研究と関連する研究を行う国以外の者の施設が集積するものと見込まれる。

別紙

1 特定事業の名称

国有施設等の廉価使用の拡大による研究交流促進事業（８１５）

2 規制の特例措置の適用を受けようとする者

九州大学

3 当該規制の特例措置の適用の開始の日

特区計画認定後直ちに

4 特定事業の内容

九州大学との共同研究等を実施する民間企業等が研究施設を整備するための大学敷地の廉価使用を認め、ＩＴ、バイオ、ナノ分野の研究の効率的推進を図る。

5 当該規制の特例措置の内容

(1) 当該国の機関における当該特定の分野に関する研究に関する国以外の者との交流の実績

平成13年度において次のような実績を有している。

	民間等との共同研究	受託研究受入れ
ＩＴ分野	27件	22件
バイオ分野	21件	131件
ナノ分野	35件	50件

(2) 当該交流の一層の促進を図ることが当該特定の分野に関する研究の効率的推進に相当程度寄与するものと認めた理由

本区域内における科学技術に関する試験研究の中核機関である九州大学は、ＩＴ、バイオ、ナノ等の分野において、共同研究等国以外の機関との研究交流について数多くの実績があり、産業振興等に寄与してきた。今後、この産学官交流の一層の促進を図ることが、わが国の科学技術振興の重点分野であるＩＴ、バイオ、ナノ技術に関する研究の効率的推進に寄与するものとする。

(3) 当該特定の分野に関する研究と関連する研究を行う国以外の者の施設の集積見込み

九州大学の周辺には、内外のＩＴ関連企業の研究開発部門が集積する福岡ソフトリサーチパークや、研究開発支援機関である（財）九州システム情報技術研究所、また、ＩＴ、バイオ、ナノ関連企業の研究所等が多数存在する。また、さらに平成15年度

中にはシステム LSI の新たな研究開発拠点としてシステム LSI 総合開発センター（仮称）が市内ももち地区に整備されるなど、集積が集積を呼ぶことなどにより、九州大学の当該分野の研究と関連する研究を行う国以外の者の施設が集積するものと見込まれる。

（４）その他

九州大学総長が廉価使用を適当と認定した場合は、その結果を文部科学大臣に通知することとする。

別 紙

1 特定事業の名称

公有水面埋立地の用途変更等の柔軟化事業（1201）

2 規制の特例措置の適用を受けようとする者

福岡市

博多港開発株式会社

3 当該規制の特例措置に適用の開始の日

特区計画認定後直ちに

4 特定事業の内容

博多港の臨海部においては活発な企業活動が行われており、特区内での企業活動がより円滑に行われるよう、用途変更や権利設定等の手続きの迅速な対応を実施する。

5 当該規制の特例措置の内容

「用途変更」や「権利設定等」の許可に要する期間が明らかにされることにより、企業活動がより円滑に行われることとなるため、用途変更等の柔軟化事業による特例が必要である。

特例措置の適用を受けようとする埋立地についての竣功認可の告示内容

地 区 名	埋 立 権 者	免許年月日	竣功認可日	認可告示日	竣功面積(m ²)	番号	
香椎ハート地区 (2の1工区)	福岡市	S62.11.27	H 7. 5.12	H 7. 5.29	526,491.49		
			(2の2工区)	H10. 3.27	H10. 6. 1	407,875.13	
東浜ふ頭地区 (2工区)	博多港開発(株)	H 1. 6.19	H 6.12. 8	H 6.12.26	172,935.04		
博多船溜地区	福岡市	H 3.10.11	H 7. 4. 6	H 7. 4.24	67,967.32		
アイランドシティ地区 (2の1工区)	福岡市	H 6. 4.11	H 9.10. 1	H 9.10.30	20,717.46		
			(2の2工区)	H12. 4.25	H12. 5.25	695,651.05	
			(3の1工区)	H13. 5. 1	H13. 5.24	23,427.99	
			(3の2工区)	H14.12.27	H15. 2. 3	405,561.15	
アイランドシティ地区 (1の1工区)	博多港開発(株)	H 6. 4.11	H12. 4.25	H12. 5.25	383,699.49		
			(1の2工区)	H13. 4.23	H13. 5.24	588,503.45	
箱崎ふ頭地区 (1工区)	博多港開発(株)	H 6.10.31	H 9. 4.21	H 9. 6. 2	156,716.13		
			(2の3工区)	H15. 3. 1	H15. 3. 1	151,486.11	

最近権利設定等を行った事例

【事例1】

倉庫業者が倉庫の移転集約を行うため、博多港開発株式会社が所有する未処分の埋立地を分譲するにあたって権利移転許可を受けたもの（平成14年10月）

【事例 2】

物流企業が物流倉庫を建設するため、福岡市が所有する未処分の埋立地を分譲及び賃貸するに当たって権利移転許可及び権利設定許可を受けたもの（平成 14 年 3 月）

別紙

1 特定事業の名称

特定埠頭運営効率化推進事業（１２０３）

2 当該規制の特例措置の適用を受けようとする者

博多港ふ頭株式会社

3 当該規制の特例措置の適用開始の日

平成１６年４月１日

4 特定事業の内容

博多港の港湾施設の香椎パークポートコンテナターミナル及びアイランドシティコンテナターミナルについて、「特定埠頭」として事業者へ一体的かつ長期的に貸付し、民間の経営能力を活用し、港湾施設の利用効率の増進並びに港湾サービスの向上を図るもの。

5 当該規制の特例措置の内容

博多港においては、官民一体となり、取扱貨物量増加への対応や港湾コストの削減、更にはIT化促進等の施設運営の効率化や施設の利用促進のための取り組みを行っているが、更に国際競争力を強化するため、アジア主要港並の港湾コストやサービスの提供が求められている。

現行の港湾管理者による港湾運営では、利用者が行政財産である港湾施設を使用する場合、港湾管理者から、施設毎にその都度使用許可が必要であり、港湾施設を使用する者が支払う使用料についても、岸壁やガントリークレーン等の使用料は、船舶のトン数や施設の使用時間の増加に伴い定率的に増加することとなっており、施設利用が多い利用者や大型化した船舶を運航する船社にとってメリットがない。

また、港湾管理者が新たな施設整備を行う場合は、予算上の制約や施設整備の手続きに時間を要するなど、利用者の要望に迅速に対応できない現状がある。

特区法第１４条に基づく「特定埠頭運営効率化推進事業」により、港湾管理者が、行政財産である港湾施設の香椎パークポートコンテナターミナル及びアイランドシティコンテナターミナルを一体的かつ長期的に事業者に貸付けることが可能となり、博多港において公設民営（上下分離方式）と民間の創意工夫を取り入れた一体的な港湾施設の運営が実現する。

特定埠頭の港湾施設を利用する利用者は、港湾管理者による使用許可が不要となり貨物集荷策として事業者が設定するボリュームディスカウント等の柔軟な使用料によ

る施設利用が可能となる。

また、事業者による利用者のニーズに応じた事業者独自の迅速な施設整備と取扱貨物量増加に伴う収益の利用者への還元による更なる港湾コスト削減により港湾サービスの向上が図られる。

これらの効果により、博多港において港湾施設の利用効率の増進並びに国際競争力のある港湾コストと港湾サービスを実現し、ITの活用や様々な施策とともに、国際競争力のある「国際ハブ港湾」の形成を図る。

なお、特定埠頭運営効率化推進事業開始時の取扱貨物量見込みを年間50万TEUと推計した上で、事業満了時（10年経過後）の目標取扱貨物量を年間65万TEU以上と設定していることから、貨物の増加による更なる港湾の活性化、新規雇用の創出や背後経済圏への経済波及効果が生じるものと期待される。

（特定埠頭施設の概要）

(ア)香椎パークポートコンテナターミナル ふ頭用地（約23ha）

施設名	規模/規格
岸壁	4,5号岸壁：水深-13m，延長600m（2fl-入）
岸壁給水施設	150mm, 15口
荷捌き地	23,556.00 m ²
コンテナヤード	183,000.38 m ² -11m岸壁背後14,004.90 m ² 含む
トリー式橋形クレーン	定格荷重40.6t，16列対応：2基 定格荷重40.6t，17列対応：2基
管理棟	延床面積 4,995.67 m ² （RC4階建），ゲート9レーン
修理場	延床面積 1,193 m ²
受変電室	延床面積 451.44 m ² （RC平家建）

* 上記施設の付帯施設を含む。

(イ)アイランドシティコンテナターミナル ふ頭用地（約15ha）

施設名	規模/規格
岸壁	水深-14m，延長330m（1fl-入）
岸壁給水施設	150mm, 5口
荷捌き地	13,530.00 m ²
コンテナヤード	126,567.36 m ²
トリー式橋形クレーン	定格荷重40.6t，18列対応：3基
管理棟	延床面積 850 m ² （鉄骨2階建），ゲート8レーン
検査場	面積 1,800 m ² （内有蓋400 m ² ）
冷凍コンセント	240口
受変電室	延床面積 539.10 m ² （RC平家建）

* 上記施設の付帯施設を含む。

別紙

1 特定事業の名称

自動車の回送運行時における仮ナンバー表示の柔軟化事業（1204）

2 当該規制の特例措置の適用を受けようとする者

博多港車両置場利用組合（6社）

3 当該規制の特例措置の適用開始の日

特区計画認定後直ちに

4 特定事業の内容

博多港の箱崎ふ頭地区において、回送運行許可事業者が取り扱う仮ナンバーを使用する回送車両について、柔らかい材質の番号標やビニールケースに入れて表示する方式を採用するなど、車体に傷の付かず、取り付け取り外し作業が省力化される回送運行許可番号標の使用を可能とすることにより、自動車回送作業の効率化を図る。

5 当該規制の特例措置の内容

（1）特例を適用する運行区間（別図のとおり）

A区間（ホンダ）

：約1,300m うち公道部分約750m（250mは一般車通行止）

B区間（スバル 平成15年8月より）

：約700m うち公道部分約550m（250mは一般車通行止）

（2）回送運行の頻度

A区間：週3日程度（約30台/日）

B区間：週3日程度（約200台/日）

（3）車両数

A区間：約400台/月

B区間：約2,500台/月

（4）回送運行車以外の交通量（公道部分）

470台/時 なお、殆どが港湾関係車両である。

（回送運行作業に合わせ平成15年2月28日（金）10:00～13:00調査）

- (5) 当該区間の公道部分において、回送車両が走行する距離は全体で750mであり、また、箱崎ふ頭の最奥に位置しているため一般車両の通行量も少なく、仮ナンバー表示の規制を柔軟化しても、他の車両などに対する影響はないものと思われる。

作業時間の短縮効果

(取り付け、取り外しに係る時間(約2分/台)が省略可能な場合)

A 区間: $2 \text{分/台} \times 400 \text{台/月} \times 2 \text{回} = 1,600 \text{分/月} = \text{約} 27 \text{時間/月}$

A 区間は2区間に分かれるため、回送運行は2回行われる。

B 区間: $2 \text{分/台} \times 2,500 \text{台/月} \times 1 \text{回} = 5,000 \text{分/月} = \text{約} 83 \text{時間/月}$